

事例番号 090 商家の町並み保存によるまちづくり(三重県伊勢市・河崎地区)

1. 背景

伊勢市河崎地区は伊勢市の中心を流れる勢田川の水運により栄えた問屋街であり、お伊勢参りで賑わう伊勢の町の台所として江戸時代には繁栄を極めた。近年、物流の中心が水運から陸運に変わり、かつての賑わいは消えたが、古い町屋や商家の蔵、伊勢地域の町並みを特徴づける「妻入り」のたたずまいは現在でも残っている。

伊勢市では1974(昭和49)年7月の七夕水害により勢田川が氾濫し、市街地の大半が浸水した。その復興策の一環として河崎地区の89戸の家屋移転(取り壊し)を含む勢田川改修計画が建設省(当時)から1976年に発表されたが、地元からはそれに反対する声が発せられた。そして町民有志が対案を作成する中から地域の歴史的背景が再認識され、「水害のない、安心して住める、立ち退きのない水害対策」を求める町並み保存運動の機運が盛り上がった。

1979年に「伊勢河崎の歴史と文化を育てる会」が結成され、財団法人ナショナルトラスト協会による町並み調査が開始された。1982年に空き蔵を改造した「河崎まちなみ館」が開業し、周辺では新たに開店する店も出始めた。しかしながら、歴史的町並み整備の動きは地域全体に波及するような大きな動きとはならず、河崎地区のまちづくり活動は一時停滞する。

1994(平成6)年に伊勢市が都市計画マスタープランの策定に着手し、1996(平成8)年に河崎地区でワークショップが開かれた。そして、河崎地区＝「歴史文化交流拠点」、勢田川＝「歴史観光交流軸」として位置づけられたことから、再びまちづくりの動きが活発になった。

そうした中、1998(平成10)年に老舗の造り酒屋・小川商店の敷地にマンション建設計画が持ち上がったため、市は保存のためにその土地を買い取り、建物の寄贈を受けた。そしてそれを活用して「伊勢河崎商人館」を整備する構想が策定され、2002(平成14)年に開館された。市により整備され、「NPO 法人伊勢河崎まちづくり衆」により運営されている同館は、現在では同地区のまちづくりの拠点となっている。

2. 目標

伊勢市河崎地区のまちづくりは、観光客が大勢集まるまちではなく、住民が住んでいて愛着と誇りを感じられるまちを目指している。「歩いていて落ち着く」「住んでいて心が安まる」「生活のにおいがする」ということが住民にとっての河崎の町の魅力であり、これらを壊してまで観光事業で人を呼ぼうとは考えていない。そのため、まちづくりのテーマも「いつまでも住み続けられるまち」としている。

3. 取り組みの体制

河崎の町のシンボルとして、また、まちづくりの拠点として2002(平成14)年に「伊勢河崎商人館」が開業したが、同館を運営するために、1979年に結成された「伊勢河崎の歴史と文化を育てる会」を中心に他のまちづくり団体が発展的に合体して「NPO 法人伊勢河崎まちづくり衆」が設立された。現在のまちづくり活動は、同NPOが中心となっているが、地元の字(あざ)の代表組織である八人衆とも連携している。



伊勢市の位置 (資料:伊勢市観光協会ホームページ)



河崎地区 MAP (資料:『勢田川流域“河崎今昔”案内』パンフレットより抜粋)

4. 具体策

(1) 拠点施設の整備・運営

① 「伊勢河崎商人館」

河崎の町のシンボルである「伊勢河崎商人館(酒問屋の老舗「旧小川酒店」)」を市が整備して「NPO法人伊勢河崎まちづくり衆」に運営を委託している(公設民営方式)。同館は老舗の商家らしい風格のある母屋や蔵、茶室・茶庭を残しており、展示施設、貸室、講演会会場、コンサート会場等として利用されている(小ホール等)。勢田川に面する南蔵 3 棟は「河崎商人蔵」として飲食・物販施設になっており、NPO の事業原資を得るための事業として位置づけられている。伊勢河崎商人館は、問屋のまち河崎のシンボルであると同時に、まちづくりの拠点であり、地域住民の集いの場所ともなっている。

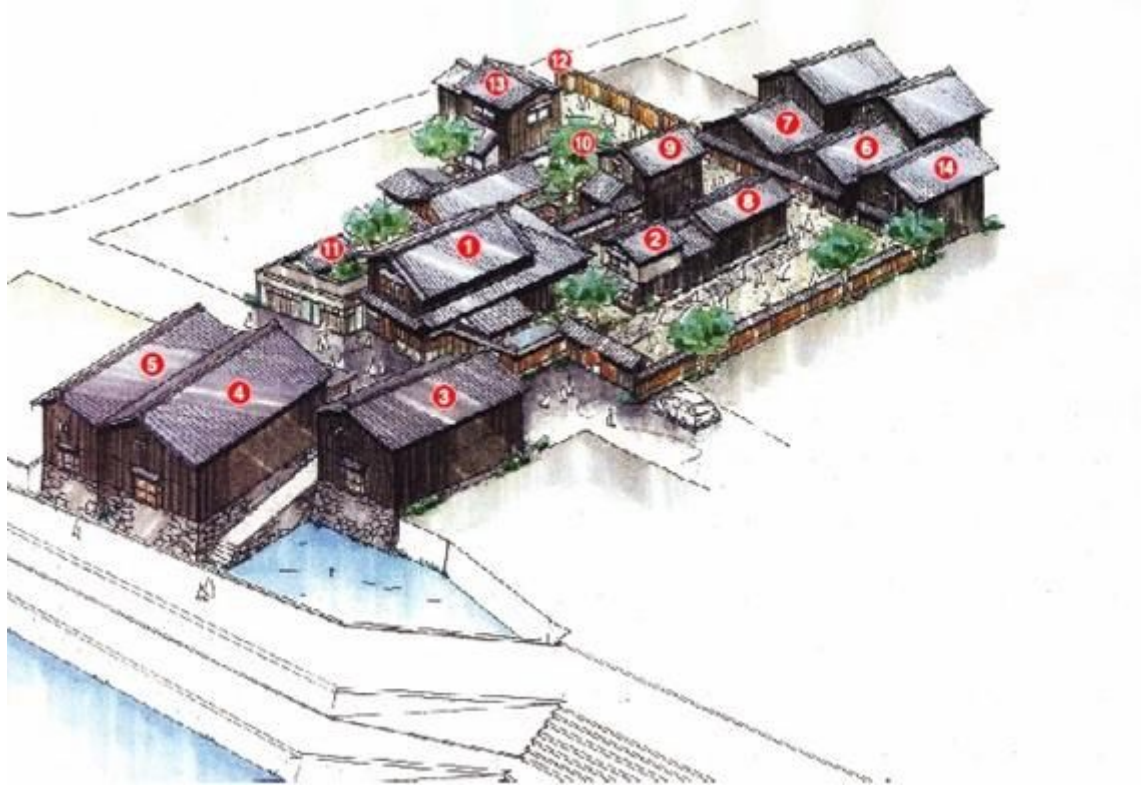
② 「河崎商人蔵」

伊勢河崎商人館の蔵を改造した飲食施設、ギャラリー&ショップであり、現在 26 店舗が出店している。出店者は一般公募者を含めて格安な条件で募っている。店には個性豊かで他にない面白い一品物が揃っており、観光客の人气も高い。



河崎商人蔵の外観

伊勢河崎商人館の施設概要 (資料:伊勢河崎商人館ホームページ)



No.	施設の名称	施設の呼称	面積(m ²)	建設年代	活用内容
1	主屋	母屋	205	明治中期	事務室、受付、貸室
2	離れ	河崎文庫	15	明治中期	倉庫(書庫)、閲覧室
3	南蔵1	商人蔵壱の蔵	66	慶応3年(1867)	貸室
4	南蔵2	商人蔵弐の蔵	81	明治25年	貸室
5	南蔵3	商人蔵参の蔵	41	明治25年	貸室
6	北蔵1	河崎角吾座	97	明治中期	貸室(講演会・コンサート等)
7	北蔵2	河崎まちなみ館	102	明治中期	展示室
8	内蔵1	収蔵庫	31	天保年間(1830~1843)	倉庫
9	内蔵2	内蔵資料館	25	天保6年(1835)	展示室
10	サイダー検査室	旧サイダー検査室	12	昭和初期	控室等
11	応接室及び前室	商人倶楽部	9	大正期	展示室等
12	サイダーろ過施設	旧サイダーろ過施設	3	昭和初期	—
13	主屋別棟	離れ	58	—	倉庫等
14	野外トイレ	野外トイレ	53	—	トイレ



河崎商人蔵の内観(ショップ)



伊勢河崎商人館でのライブ風景（写真提供：伊勢市）



ワークショップの風景（写真提供：伊勢市）

NPO 法人伊勢河崎まちづくり衆の事業(資料:伊勢河崎まちづくり衆 平成 14 年度事業報告書)

類別	事業名	事業内容
特定非営利活動に係る事業	河崎のまちづくり事業	①伊勢湾と勢田川を生かしたまちづくり ②歴史的なまちづくりフォーラム ③新くらくら談義
	河崎の町並み調査研究事業	「建物とまちなみの保全」調査業務
	まちづくりに関する各種受託事業	①「建物とまちなみの保全」調査業務 ②川の駅周辺整備計画案策定 ③河崎案内ホームページの作成 ④河崎紹介ビデオの制作
	河崎のまちづくりを支援する活動に対する協力	①河崎まち歩き、河崎写真大会 ②蔵くら寄席 ③商人館開館イベント ④LIVE ザ河崎
収益事業	物品販売事業	商人市&フリーマーケット
	その他事業	まちなみ映画祭収益事業

③ 「川の駅」

伊勢河崎商人館に隣接して、2002年に整備された河崎「川の駅」がある(地元NPOが連携して整備のあり方を検討し、市が整備)。勢田川に面して造られた川の駅の駅舎は、昔市内を走っていた路面電車の駅舎をモチーフにしたデザインで、舎内は休憩所と勢田川の水運の紹介施設となっている。宇治山田港湾整備の一環として勢田川の下流に整備された二軒茶屋「川の駅」、神社「海の駅」、大湊「海の駅」と合わせて広域連携の拠点となっており、船運で栄えた問屋街としてのイベントや、かつての船によるお伊勢参りに因んだ観光水上交通の運行を行っている。事業は、勢田川下流のNPOと連携して「NPO 法人伊勢河崎まちづくり衆」が運営している。

(2) 「空蔵仲人事業」

NPOが町屋のオーナーと相談して空き家・空き蔵の仲介事業を行うための準備を行っている。試験的な取り組みとして「町屋宿泊体験館」事業を実施している。

(3) 町並み保存のルールづくり

住民が伊勢市と協働して、街なみ環境整備事業などを活用しながら、意匠や色彩についてのルールづくりを進めている。

5. 特徴的手法

伊勢河崎商人館は伊勢市がNPOに運営を委託しているが、市はNPOに対して施設維持費以外の運営委託費を払っていない。NPOは商人館の入場料、商人蔵における収益事業等を原資として自立的な拠点施設運営を行っている。これが大きな特徴である。



川の駅におけるライブイベント（写真提供:伊勢市）

6. 課題

まちづくりや町並み景観整備は行政が推進しようとしても住民が望まなければ進めることはできないわけであるが、NPO の関係者には地区外在住の市民が多く、河崎地区に古くから住んでいる住民との間に町並み保存等について若干の意識の差異が見られるようである。今後、建築物等の老朽化が進み、修復や建て替えを必要とする町屋や蔵が増加することが予想されるが、住民同士の合意形成をどのように図っていくかが課題であろう。

（参考・引用文献）

伊勢河崎商人館ホームページ

『観光 07・05』

伊勢市ホームページ

『勢田川流域“河崎今昔”案内』パンフレット